

# 鉄道を活かしたまちづくり

～鉄道はみんなの移動手段の主軸～



藤井勇治 (長浜市長)

長浜市は、最古の駅舎が残る鉄道ゆかりの地で、大津市の16駅に次いで、2番目に多い9つの駅（JR駅のみ）を持っています。駅は私たちの生活にとって身近で親しみのある「まちの顔」です。

そこで長浜市では、平成18年に実現した琵琶湖環状線の効果を最大限に活かすため、これまでに以上に地域の特性を活かす取り組みを積極的に進めていこうと考えています。

今回は、JR西日本京都支社の湊支社長と藤井市長に、駅を活用したまちづくりや公共交通を通してお互いの連携についてお話を伺いました。

## ○観光都市新長浜に向けて

藤井市長：ようこそ長浜へお越しくださいました。今日は曳山まつりで、まちなかがたいへん賑わっています。ところで、長浜は初めてですか？

湊支社長：長浜駅までは来たことがありますが、市街地を訪れるのは今日がはじめてです。先ほど曳山まつりの子ども歌舞伎を拝見させていただきましたが、絢爛豪華な曳山に歴史ある伝統文化の重みを感じました。あれだけのものを400年以上前からほとんど市民の力でやってこられたと聞き、びっくりしています。藤井市長：私たちのふるさと長

浜は、世界にも誇れる歴史的財産の宝庫です。例えば大通寺などの寺社仏閣に代表される「文化的資産」、姉川古戦場、小谷城址、北國街道などの「歴史的資産」、琵琶湖や余呉湖、緑豊かな山々などの「自然財産」が点在しています。これらを巧みにつなぎ合わせ、経済効果や地域づくりにつながる裾野の広い観光振興を進め、新長浜のブランド力の向上を皆さんと共に図っていきたくと思っています。

湊支社長：当社も盆梅展の宣伝や、北びわこ周遊キャンペーン、SL北びわこ号の運行など年間を通して、色々な形で長浜市さんと共に考えながら、観光面と一緒に取り組んできたと思っています。特に最近の観光の傾向はと言いますと、ひとつには「安」・「近」・「短」という日帰り型のスタイルがトレンドで、当社の商品の一つにもそれに対応した「駅プラン」があります。これは交通手段と地元ならではの食事や観光をセットにし、多くのお客さまにご利用いただいております。

最近のキーワードは「健康」や「エコ」だと思います。当社では地元のガイドの方に案内いただく「デイスカパーウエストハイキング」を企画しています。

特に湖北地域は自然に恵まれているのでコースも充実しています。もう一つ最近の傾向としては、観光にプラスして「体験する」や「学び」をセットにしたもので、長浜では黒壁でのガラス工芸体験のセット商品を「お誂え」として企画しています。これが大変人気があります。遠方から多くのお客さまにご利用いただいております。

これからの観光は、素材の提供だけでなく、産業と捉えなければいけないと思います。単に何かを見るだけでなく、できるだけ宿泊していただき体験していただくことが大切だと感じています。特にこれからは外国

のお客さまも誘客していきたいと考えていますので、長浜市の特つ豊かな観光資源をしっかりと活かすという意味では、それらに付加価値をいかにつけるかが大切です。

同時に、遠くから来られたお客さまにもご案内できるような二次アクセスの整備、あるいは特別な企画展などのイベントを実施して、しっかりとご案内できる、あるいは講義できるといった受け入れ態勢の充実をこれから取り組むべきだと思っています。

そして、内外に観光情報を発信していくことが大切です。近畿だけではなく他のJRや全国の旅行会社へ情報提供をしてい

くことで、「長浜に行けばいろんなことが体験できるよ」と知っていただく。こういった取り組みをぜひ進めていかなければいけないと考えており、長浜市の皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

## ○2011大河ドラマ

### 「お江」

藤井市長：ありがとうございます。2011年の大河ドラマが



みなと 湊 和則さん (JR西日本京都支社長)

昭和32(1957)年9月9日生まれ 52歳  
昭和55年日本国有鉄道入社  
平成21年6月執行役員京都支社長



浅井三姉妹らのイラストをあしらった北近江戦国バス